



家庭の同行 4

ひき出されてゆく生きる力

やまの茂吉(和田重良)

- 穴のあきそうな心を「充たしてくれる」もの
- つないだ手は離さない「信じている」こと
- あそこに帰れば迎えてくれると
- 「あんしんできる」と

朝、起きたらすぐやれることをつくれ

明るい方へ

「ヨイことはする」という三つの鍵の三つ目に出てくる、「ヨイ」とはどんなものなのでしょう。三つの鍵については本誌の9

ページを参照して下さい。三つの鍵の話の内容はまた後日することにして、昔から、くだけた生活舎に来ていっしょに生活する子たちのとつても面白い変化に気がついていたので。これは、子どもたちだけでなく相談にいらつしやるお父さんやお母さんについても同じ変化があるのです。

和田重正言葉抄

それた子に希望の光を

「もう二度とこんなことはしないと誓いなさい」「悪いとわかったら大きい声で謝りなさい」——これは悪いことをした子に評々とお説教した拳句に親や教師がよく言う台詞だ。こんなことを無理に言わせて子どもが立ち直った例があるだろうか。こういう責め方は、子どもの剛情な不心得に兜を脱いだ親側の敗北の呻き声としか聞かれない。

「朝」を失くすと健康的なものが損われます。それよりもっと大変なことにブチ当ります。要するに人間らしい人間となるための宿題のような「自己に目覚める」ということが困難になってしまふのです。

朝の三点セット

そこで、くだけた生活舎では「朝の三点セット」を用意しておきました。眠かろうが、具合が悪かろうが、都合が悪かろうが、とにかく朝が来たらこの三つをやるのです。単純で簡単なことです。

「朝」をなくした原因

子どもも大人も、もうここまで行ったら身も心もたなくなってしまうぞ、と思うのが「生活リズム」の崩壊です。その原因は、もう何度も言いますが、「光と音」という文明の象徴そのものです。

「朝」をなくした原因

「朝、自分で起きられない人」がたくさんいます。目がさめないで、昼まで寝ます。それが段々とズレて行つてとうとう夜中に起きていて、昼に寝ています。「朝」という大事なスタートが無くなつてしまふのです。

朝の三点セット

そこで、くだけた生活舎では「朝の三点セット」を用意しておきました。眠かろうが、具合が悪かろうが、都合が悪かろうが、とにかく朝が来たらこの三つをやるのです。単純で簡単なことです。

過去に心で違いを責めてその暗さに執着させる代りにそれはアツサリ捨てて新しい希望を設定する手伝いをしやる方が教育的だ。親や教師がその態度を根気よく持ち続けたならば、どんなヒネクリた若者の心にも光を点することになるだろう。親や教師がグチ混りの暗いお説教をやめることが第一。

(昭和55年 くだかけ二十三号より)

こと」になって行くのです。例外なくそうなっています。かと言って悩み事が無くなったわけではありません。しかし、悩み方が違ってくるので。そこが人間の心の面白い仕組みですね。

人まかせの いいかげんな気分

やはり、多過ぎる「光や音」から解放されることは大事なことです。くだけた生活舎」に来ると、パソコンもテレビもないからシャットダウンできるので、「朝」をとり戻しやすいのです。

しかし、家庭ではもう一歩踏み込んで「朝」を迎える工夫が必要です。会社や学校の圧力が負担になっていることでもあります。

お休みの日の釣りやゴルフならすぐ目がさめて、サッサと仕度して行動するのに、イヤな学校は決つてサッパリと目がさめないのです。

そこで、まずは学校へ行く前に「朝起きたらすぐやれることを決めておく」という作戦を提供してみたりするのです。すぐやれるこ

とは、「やらされている」のではないのです。人まかせのいいかげんな気分でないものがないのです。例えばどんなことがあるでしょう。それぞれの家庭で工夫してみてください。引いてしまふけど…

まず、「今日一日が自分のものになる」ためには、例えば「誰よりも早く学校へ行ってみる」のはどうでしょう。守りの姿勢では安全でも安心でもないのです。ちよつと気持ちは「引いてしまふ」けど朝起きてコップ一杯の水を「飲もう」とするだけで「自分の朝」はやつて来ます。

小さい頃から、起こさないと起きない、自分で起きられない、というのはまったく自分で自分を生きて行くという生活が作れなかつたわけですから、まずその辺から一歩一歩変革をして行くわけで、楽しみはたくさんありますね。

レポート募集

家庭の同行は「親と子のかかわり方提言」というテキストを使つての本部「あんしん講座」を元にしています。

5

